

病害虫発生予察情報

向こう1ヶ月(5月)の予報

平成25年度 予報第1号

東京都病害虫防除所

〒190-0013 立川市富士見町 3-8-1

Tel 042-525-8236 Fax 042-529-0943

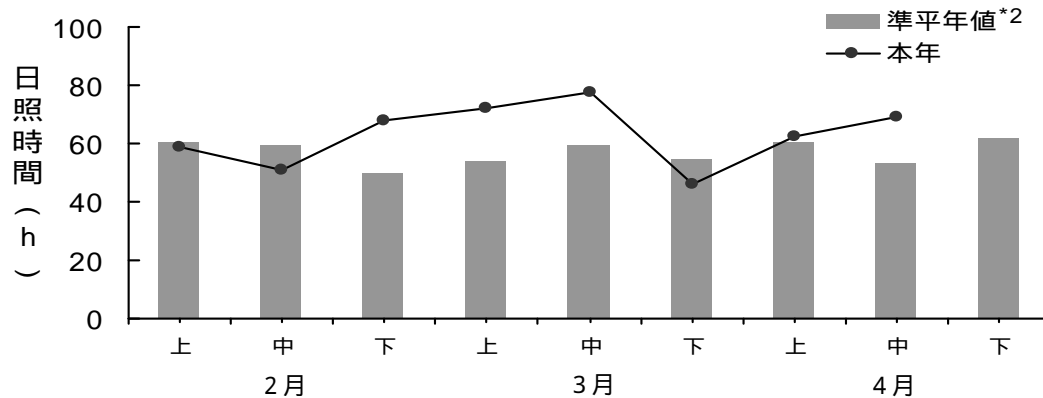
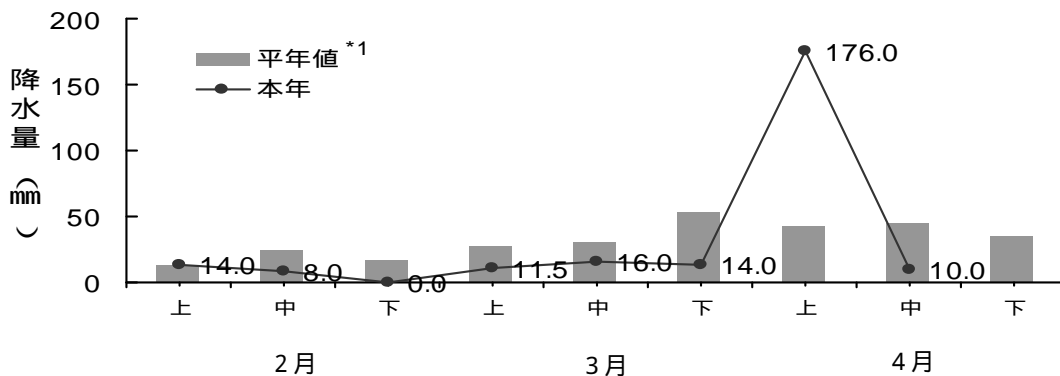
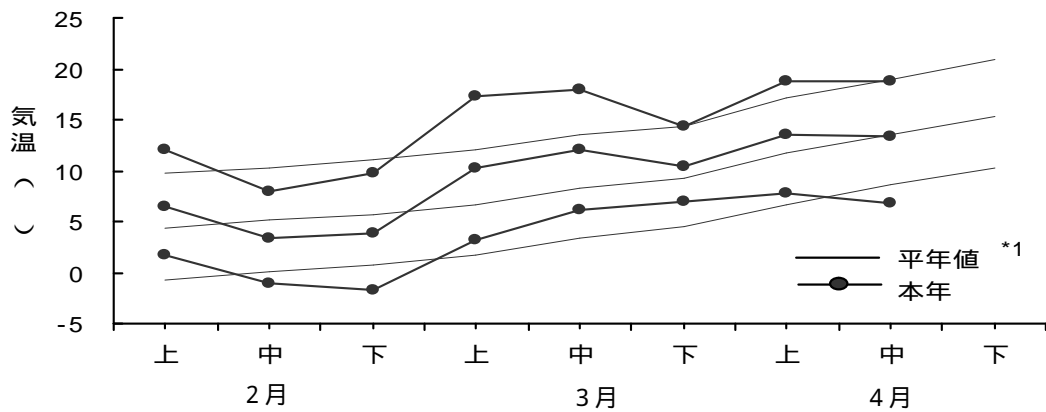
<http://www.jppn.ne.jp/tokyo>

e-mail: S0200303@section.metro.tokyo.jp

【気象予報】平成25年4月26日 気象庁 地球環境・海洋部発表，関東甲信地方の1か月予報より

確率	要素	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
	気温	40	40	20
	降水量	30	40	30
	日照時間	30	40	30

【気温・降水量・日照時間の経過】 平年値と本年の4月中旬までのデータを示した。
(東京都府中市 気象庁気象観測所データ)



*1: 1981-2010の平均値, *2: 1987-2010の平均値

5月はチョウ目害虫（ヨトウガ，コナガ，モンシロチョウなど）の防除時期です！

4月の巡回調査では少なく推移していますが、防除適期は連休明けから5月中旬となります。

防除指針を参考に天敵に影響の少ない剤（IGR系やジアミド系など）を選択して防除しましょう！

【病害虫発生予報】（各根拠に記した（ ）内記号は発生助長要因の強度を示す）

・果樹の病害虫

1. ナシの黒斑病・黒星病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

1) 巡回調査では、各地とも発生はやや少ない。(-)

2) 気象予報によると気温は平年並～低く、降水量は平年並と予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

1) 初発を見落とさず、防除指針に従い薬剤を散布する。

2. ナシのアブラムシ類

予報内容

発生量 並

予報の根拠

1) 巡回調査では各地とも発生はやや少ない。(-)

2) 今後、増加期を迎える。(+)

3) 気象予報によると気温は平年並～低く、降水量は平年並と予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

1) 防除指針に従い防除する。

2) 薬剤抵抗性の発達しやすいワタアブラムシやモモアカアブラムシの発生園ではローテーション散布を行う。

3. 果樹共通 カメムシ類（チャバネアオカメムシ・クサギカメムシ）

予報内容

発生時期 並

発生量 少

予報の根拠

1) 東京都福祉保健局の発表によれば、2012年春のスギ・ヒノキ科の花粉飛散量は少なかった。(-)

2) フェロモントラップへの飛来は、やや少ない。(-)

防除上考慮すべき事項

1) 通常、ナシなどの果樹園への飛来は開花期頃からとされるので、飛来に注意する。

2) 袋がけなどで果実への加害を予防する。

・茶樹の病害虫

1. チャノコカクモンハマキ

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

- 1) フェロモントラップによる誘殺は、平年並である。(±)
- 2) 今後増加期を迎える。(＋)
- 3) 気象予報によると気温は平年並～低く、降水量は平年並と予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

- 1) 防除指針に従い防除する。

2. カンザワハダニ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、寄生葉率は0%で発生は少ない。(－)
- 2) 気象予報によると気温は平年並～低く、降水量は平年並と予想される。(±)
- 3) 今後、増加期を迎える。(＋)

防除上考慮すべき事項

- 1) 防除指針に従い防除する。
- 2) 一番茶摘採前に防除が間に合わない場合は、摘採後に防除を行う。

. 野菜の病害虫

1. トマト灰色かび病（施設）

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、各地とも発生はやや少ない。(－)
- 2) 気象予報によると気温は平年並～低く、降水量は平年並と予想される。(＋)

防除上考慮すべき事項

- 1) 施設内の過湿に注意し、病果、病葉はただちに処分する。
- 2) 防除指針に従い薬剤を散布する。

2. トマト葉かび病（施設）

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、各地ともやや少ない。(－)
- 2) 気象予報によると気温は平年並～低く、降水量は平年並と予想される。(＋)

防除上考慮すべき事項

- 1) 過繁茂に注意し、古い葉などは適切に除去する。
- 2) 肥料切れになると発病しやすくなるので、肥培管理に注意する。
- 3) 葉かび病抵抗性品種でも発病する場合があるので、圃場内を観察し、発生を見たら防除指針に従い薬剤を散布する。

3. コマツナ・カブの白さび病（露地）

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、各地とも発生は平年並である。(±)
- 2) 気象予報によると気温は平年並～低く、降水量は平年並と予想される(±)

防除上考慮すべき事項

- 1) 密植を避け、雨よけ栽培（トンネルなど）を行う。

4. ネギさび病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、各地とも発生はやや少ない。(-)
- 2) 気象予報によると気温は平年並～低く、降水量は平年並と予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

- 1) 発生初期を見落とさないように、防除指針に従い薬剤を散布する。

5. ネギおよびタマネギのネギアブラムシ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、寄生株率は0%と発生は少ない。(-)
- 2) 今後増加期を迎える。(+)
- 3) 気象予報によると気温は平年並～低く、降水量は平年並と予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

- 1) 本虫は萎縮病を媒介する。
- 2) 防除指針に従い薬剤を散布する。

6. ネギアザミウマ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、各地ともネギにおける被害度は2.6と低い。(-)
- 2) 気象予報によると気温は平年並～低く、降水量は平年並と予想される。(±)
- 3) 薬剤に対する感受性の低下傾向が現れている。(+)

防除上考慮すべき事項

- 1) 発生初期の防除を徹底する。
- 2) 定植時に土壌施用粒剤を使用する。
- 3) 防除指針に従い薬剤を散布する。

7. コナガ

予報内容

発生量 少

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、各地とも露地圃場での発生は少ない。(-)
- 2) フェロモントラップによる誘殺数は少ない。(-)
- 3) 気象予報によると気温は平年並～低く、降水量は平年並と予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

- 1) 例年5月中旬より発生が増加するので、薬剤抵抗性の出現に注意して、系統の異なる薬剤をローテーション散布する(防除指針アブラナ科野菜の各項参照)。

8. ヨトウガ

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

- 1) 昨秋の発生は各地とも平年並であった。(±)

2) フェロモントラップへの誘殺は4月上旬より確認されており、誘殺数は平年並。(±)

防除上考慮すべき事項

1) 発生を見たら防除指針の各作物ごとに薬剤の散布を行う。

9. ネキリムシ類(カブラヤガおよびタマナヤガ)

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

1) フェロモントラップ調査では、カブラヤガの誘殺数はやや多い。(+)
2) 気象予報によると気温は平年並~低く、降水量は平年並と予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

1) 各作物ごとに防除指針に従い、定植時および定植前または播種前に土壤施用剤を施用する。
2) 被害株周辺の土中にもぐっている幼虫を捕殺する。

10. オンシツコナジラミ(施設)

予報内容

発生量 半促成栽培 少

予報の根拠

1) 巡回調査におけるトマトの寄生株率は半促成栽培では1.7%と少ない。(-)
2) 今後、増加期に当たる。(+)

防除上考慮すべき事項

1) 発生を見たら防除指針に従い薬剤を散布する。

11. イチゴの灰色かび病(施設)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

1) 巡回調査では、各地とも発生は平年並である。(±)
2) 気象予報によると気温は平年並~低く、降水量は平年並と予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

1) 施設内の過湿に注意し、病果、病葉はただちに処分する。
2) 防除指針に従い薬剤を散布する。

12. イチゴのハダニ類(施設)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

1) 巡回調査では各地ともやや少ない。(-)
2) 今後、増加期に当たる。(+)

防除上考慮すべき事項

1) 発生を見たら防除指針に従い薬剤を散布する。

インターネット上の防除所ホームページ

<http://www.jppn.ne.jp/tokyo>

病害虫の発生予報、発生状況、防除方法
などをお知らせしています。